

しょうがいしゃ じりつせいかつじょうほう
障害者の自立生活情報

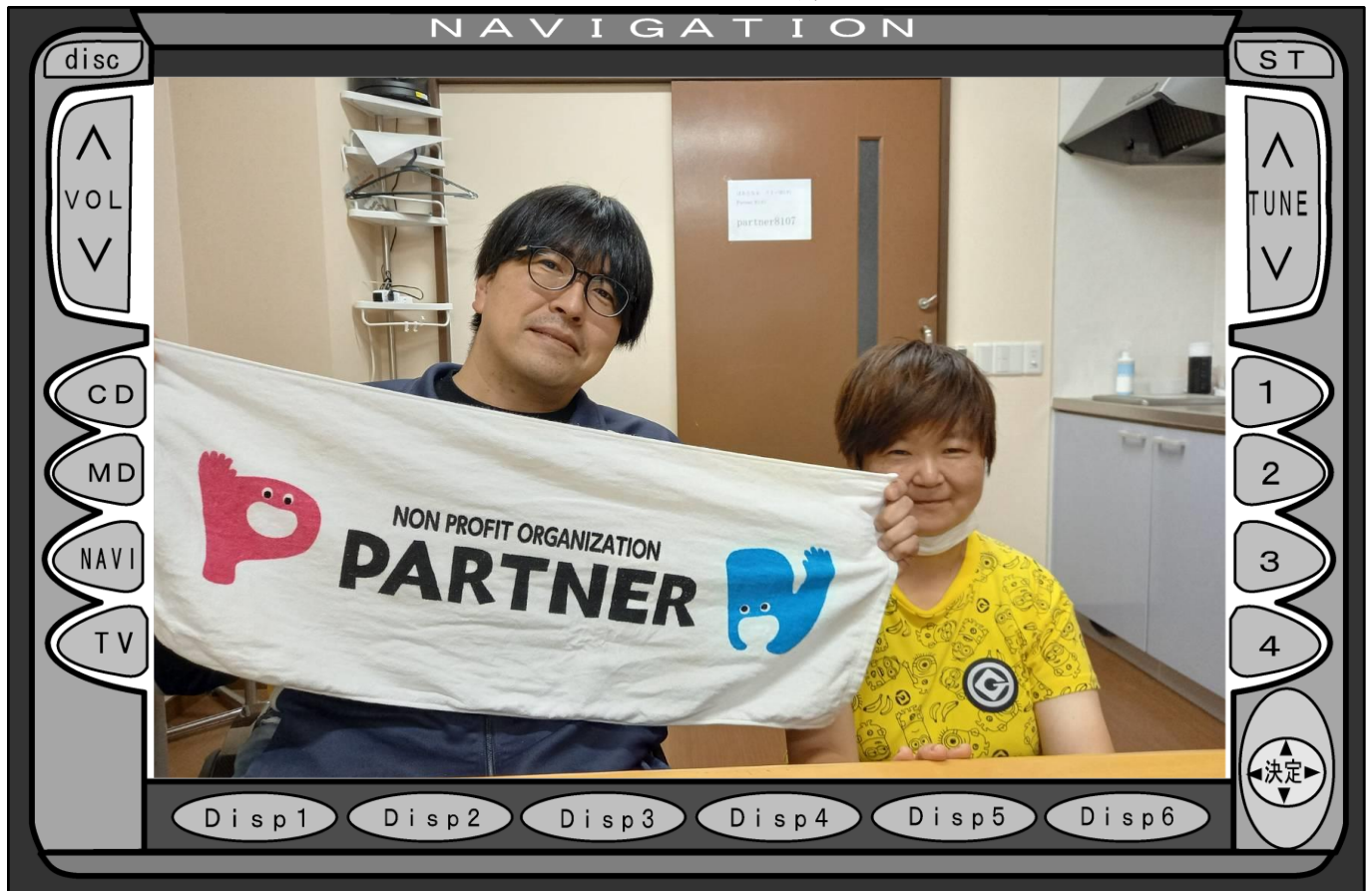
ナンバー
No. 73



ナビゲーション

(2023年7月号)

じりつ みち あん ない
自立への道案内



こんかい せぶん きょうりょく
今回、Sevenメッセージに協力いただいた
じりつしえん ちむら たかし せのお みき
自立支援センターぱあとなあ地村 貴士さんと妹尾 美紀さんです

もくじ

- シリーズ いろんなテーマの「なぜ」を解消！Osaka Metro 納正虎さん・・・ 2
- ～Sevenメッセージ～自立支援センターぱあとなあ 地村 貴士さん 妹尾 美紀さん・・・ 10
- 編集後記・・・ 20

シリーズ いろいろなテーマの「なぜ」を解消！

このコーナーでは教育、施設、交通など各分野に詳しい人にインタビューをしていき、当時の障害者の状況、制度はどう変わってきたのか？今、取り組んでいること、これからの課題はなにか、など語ってもらうというコーナーです。2023年度は「交通・まちづくり」をテーマに掲載させていただきます。1回目は、Osaka Metroの納正虎さんに障害者と出会った時のこと、階段で車いすを担いでいた頃のこと、今後の交通バリアフリーについて語っていただきました。

名前：納 正虎
所属：Osaka Metro

年齢：62歳

趣味：テニス、ジョギング



～障害者との出会いは団体交渉～

山下：今日は交通まちづくりということでOsaka Metroの納さんにお話をうかがいたいと思います。Osaka Metroで働き始めて何年目ですか？

納：高校卒業してからOsaka Metroに入社して、現在、再雇用として2年目で44年目に突入です。

山下：僕が生まれた年に入社されたんですね。今日（取材日2023年5月10日（水））が誕生日です。

納：それはおめでとうございます！

山下：ありがとうございます。さっそくですが、Osaka Metroで働くきっかけを教えてください。

納：特に目標もなく大学入試に向けて準備を進めていましたが、お父さんからこんな試験があると進められて受験したら受かったので入ったという感じです。特

に何になりたいという夢もありませんでした。もともと電車が好きで、写真撮りに行ったりもしましたので、まったくイヤというわけではありませんでした。

山下：続けられてきたのは、どうしてだと思いますか？

納：なんでやらね。若い時は、毎日遊びに夢中でしたが、1996～2005年に本社で駅の施設に関する仕事をしていてあーしたい、こうしたいという想いが出てくると同時に会社に愛着が湧いてきたのではないかなと思います。駅の施設整備に携わっていたから、駅員さんが仕事しやすいようにとか、お客さまに対しても案内表示が見やすいようにすることとか、ちょっとでもよくしたいという想いが自分の中で出てきたのかなあ。それが仕事のやりがいになったのかも。普通

だったら経験出来ない仕事を出来たと
 思います。このような仕事に関わるって、
 みんなが出来るわけじゃないので。その
 延長線上でちゅうぶさんや障大連
 のみなさんとも出会い、今ここに居てる
 わけですから、なかなか面白いですね。
 山下：障害者との出会いはきっかけいつで

すか？
 大阪市交通局が民営化する前、2017年
 に再度本社で働くようになって、
 大阪市の団体交渉でみなさんとお会い
 しました。出戸の区民センターだったかな。
 初めて交渉の場に行ったので、何を
 聞かれるんだろうと思いつつ、戸惑い
 もあったのですが、やり取りしているう
 ちに目の前にいる車いす利用者の方
 数人が以前から駅で介助を通して知っ
 ている馴染みのある方々だと気が付い
 て（その中に山下さんもいたような）、

その方々がちゅうぶのみなさんでし
 た。私はソフト面の担当だったので、
 「駅の職員の教育はどうなっている
 の？」と、障大連（障害者の自立と
 完全参加を目指す大阪連絡会議）の
 中村さんからの質問に答えていました。

「JR天王寺駅で視覚障害者の
 体験会をしていたけど、地下鉄は何か
 考えているの？」みたいな事を言われ
 て「僕もその体験会に行っていたので、
 こんな体験会が出来ればいいなと思っ
 ていた。」と答えたように思います。
 Osaka Metro谷町線の天王寺駅でやって
 いる訓練が、唯一昼間にやっていた訓練
 で「一度見に来ますか？」ってお声がけ
 させていただいて、翌年2018年には実際

に訓練に参加してもらいました。その後、
 Osaka Metro谷町線の八尾南駅で初めて
 合同体験会を開催して、若手駅員と
 乗務員が参加して車いす利用者の方を
 実際に担いで階段を登ったり、エスカレ
 ーターを使って運び上げたり、視覚
 障害者の方への声の掛け方、車内通報
 装置の位置や使い方などを実際触って
 もらって。また車内放送の体験や
 運転席に座って写真撮影も行ったり
 しましたね。みなさんも電車が好きなん
 だと思い嬉しかったことを覚えてます。
 山下：区民センターでの出会いが今に至ってい
 るということですね。

納：そうですね。僕の中ではけっこう、身近
 に感じていたみなさんとの改めての
 出会いでした。

山下：交渉で何百人も障害者をみてどう
 でしたか？

納：こんな場があるんだと思って驚きまし
 た。全く知りませんでした。団体交渉
 と言ってもピンと来てなかったのです。
 今だから言えますが、交渉の時にはホ
 ーム柵を付けることは会社の中では決
 まっていて、でもまだ表明出来ない
 時期でした。なかなか厳しい追及でホ
 ーム柵担当の人は答弁に困っていたと
 思います（笑）。「設置します！」と言え
 ない辛さがあったと思います。私はち
 よっとでも早くみなさんに伝えられた
 らいいのになあと思っていました。

山下：言いたくても言えなかったんですね。

納：ホーム柵設置は簡単なことではないと
 思っていたので、設置するという考え
 に変わって、駅利用の、みなさんには喜

んでいただいたと思いますが、駅で働いている人も凄く喜んでいました。

山下：ホーム柵があると転落事故もなくなりやすいですね。

納：転落事故は大きな事故になるし命を失う事故にもなりかねません。電車も長時間停まるし、すごく影響が大きいからです。

山下：そういう意味では、ホーム柵の効果はものすごく大きいですよ。

納：そうですね。とても大きいです。駅で転落事故がなくなるとというのは働いていてもとても安心できます。酔客や立ち眩みで転落する人も多くいてました。命に関わる事故がなくなることは本当に良いことだと思います。

～～昼夜問わず車いすを担ぐ日々～～

山下：駅の設備のことで導線のことであったりとか考える仕事の経験もあるんですか？

納：そうですね。駅利用者みなさんが、どうすればスムーズに移動できるかを考えました。

山下：そんな中でも一番困ったのはどんなことですか？

納：特に困ったのが、ホームの幅が狭い駅にエレベーターを設置する時の対策です。当時はエレベーターが当たり前じゃなくて、エレベーターのない駅がほとんどでした。工事中のお客様の誘導をどうしていいかわからず手探りでしていたと思います。工事中は仮囲いがあるので通路が狭くなるんですよ。朝ラッシュ

ユとトラッシュがある。さてどうしようといった時に、私が考えたのは一方通行です。でも賛否両論あって「乗車の人と降車の人がクロスして通ることになる。」とかいろいろ言われましたが、朝・夕のラッシュ時は、一方通行にすることにして、昼間は混雑するわけじゃないから自由に通れるようにしました。駅で働く人は「そんなやり方で大丈夫か。」と心配していましたが、お客様は毎日通るのですぐに慣れてくれて意外とスムーズにいけるな。ということがわかりました。

山下：30～40年前の階段しかない時代、1日に何人ぐらい担ぎましたか？

納：ちょうど私が駅で働いているときですね。結構担いだよ。1日に10人～20人は担いだように思います。中央線の本町駅のホームから御堂筋線の本町駅のホームまで、本当に大変でした。当時は渡し板無しで電車に乗るのを介助していましたね。

山下：駅が整備される前はエレベーターどころかエスカレーターがない駅もたくさんあったと思います。

納：設置されてない駅が普通でした。特に大変だったと記憶があるのは大型の電動車いすに大柄な人が乗っていて、駅員6人で担いでもヒィ～ヒィ～言っていました。忘れられません。

山下：よく利用される方ですか？

納：恐らく通勤しているお客様だったと思います。しょっちゅう介助していましたね。あの当時は、改札で勤務している駅員だけでなく休憩中の駅員にも

しゅうごう かつ ぼく かいさつ
集 合 かけて担いでいました。僕は改札
ぐち しごと えきちょうしつ しごと
口の仕事ではなくて、駅 長 室で仕事を
えきいん あつ かつ い
して、駅員を集めて担ぎに行ってい
ました。

やました むかし くるま かつ けんしゅう
山下：昔は車いすを担ぐ研修をしてました
か？

なや けんしゅう
納：なかもずの研 修センターで、アイマス
ある じっさい くるま の
クつけて歩いたり、実際に車いすに乗
かいじょ なんかい
って介助しあったり、何回もしているわ
けではありませんが、何かのタイミング
おも
でしていたと思います。

やました どうじしゃ
山下：当事者はいなかったんですか？

なや どうじしゃ い
納：いなかったですね。当事者を入れての
けんしゅう やおみなみえき かいさい たいけんかい
研 修は、八尾南駅で開催した体験会が
はじ おも えき げんば
初めてだと思ひます。駅では現場で
せんばい おし そくほんばん
先輩に教えてもらって、即本番みたい
かん えき しゅっしん まいにち
な感じでした。駅に出 勤すれば毎日10
かい かいかつ おほ
回20回担ぐから、すぐ覚えてしまいます。
しかくしょうがいしゃ かつ あんない
視覚 障 害 者の方 方もいつも案内してい
かた も ある ひと うで
ましたけど、肩持って歩きたい人と腕を
も ひといろいろ かた も
持ちたい人色々いてました。いつも肩持
ひと ぼく かた も なや
つ人が、僕の肩持っただけで、「あっ納さ
ひと
んや」とわかる人もいてました。

やました
山下：すごいですね。そんなんで行けるんです
ね。

なや いま かんが どうじ
納：すごいですよね。今から考 えたら当時の
えきいん がんば うご
駅員みんなよく頑張って動いてたね。
ねんばい えきいん わか い
年配の駅員は若いもん行ってくれって。
どうじ しゅうどう おお
あの当時は手動が多かったですが、
でんどう ひと こ とき えきいん にんひつよう
電動の人が来られた時は駅員6人必要
にん かいじょ
で4人では、よう介助できませんでした
ね。

～～バリアフリーになれば、

べんり
みんな便利になりますね～～

やました こうしょう はなし
山下：交 渉でもエレベーターの 話 をするけ
ど、いったい何年後に設置されるんやろ
かと思ひてました。

なや ほんとう とちゅう
納：本当ですね。途中までエスカレーター
ちゅうしん せっち
を 中 心に設置していたのがエレベータ
ちゅうしん か くに
ー 中 心に変わりました。国がバリアフ
ほう せいてい ほじょきん だ
リー法を制定して「補助金も出すよ。」
い せっち すす おも
と言ったので設置が進んだと思ひま
すけど、補助金もらっても会社もたくさ
しゅっし たいへん
ん出資しないといけないので大変だっ
たと思ひます。エレベータやエスカレー
おな さく
ターも同じですけど、ホーム柵について
せっちひょう おお せっちご
も、設置費用は大きいけど、設置後のメ
だい
ンテナンス代がすごいらしい。それが1
かい せっちご
回じゃない。設置後ずっとメンテナンス
だい ひつよう りよう
代が必要。でも、これまでずっと利用し
りようしゃ かつ おんがえ
てもらっていた利用者の方にいい恩返
つか こうきよう
しですね。使ってもらってこそその公 共
こうつうきかん
交通機関ですからね。

やました さく せっち じゅんばん き
山下：ホーム柵を設置する 順 番は決まってた
んですか？

なや まんにんいじょう えき ゆうせんてき
納：10万人以上の駅を優先的にというのが
おも せま こうじ
あったと思ひます。狭いホームで工事す
たいへん つ はや つ
るのも大変だけど、付けるなら早く付け
じっさい せっち はや
たい。実際、設置のスピードが速いのに
はびっくりした。

やました せっち りゆう い
山下：いろいろ設置できない理由を言っしまし
たが設置出来て良かったです。

なや ぎじゅつりよく かいしゃ おも
納：技 術 力はある会社だと思ひていますの
かね わらい しゅうでん お
で、お金さえあれば（笑）。終 電 終わ
じ ごろ じゅんぴ こうじ
って1時頃からから準備して、工事して、
あとかた じ えいぎょうかいし
後片づけして、もう 5時から 営 業 開始
じっさい さぎょう しようみ
するので、実際に作業できるのは正味2

時間ないぐらい。業者さんの長期間の協力なしには出来ません。工事しだしたら直ぐに片付けするみたいな感じで大変だったと思います。また、東京でホーム柵設置工事中にお客様が転落して亡くなったという事故があったので、工事中はガードマンの配置が必要だと新たな課題が発生して、どんどん設置費用が大きくなっていったと思います。

山下：階段しかない時代、エレベーターやエスカレーターを付けてくれという要望は駅員から会社にしたことはあるんですか？

納：あの当時は、私が知らなかっただけかも知れませんが、要望しているようなことはなかったと思います。

山下：普通にある時代ではなかったんですね。

納：階段が当たり前でした。よくてエスカレーターがあったぐらいでしたから。今では全駅にエレベーターのワンルート整備が済み、現在2ルート目の設置工事しています。それに加えて、ホーム柵が設置された長堀鶴見緑地線や今里筋線、千日前線では段差・隙間が解消されており、車いすやベビーカーはスイスイ乗り降りできるようになっています。メインの御堂筋線にもホーム柵が設置され隙間は解消しましたが電車によっては段差が残ることが分かっています。それが、今後の課題ですね。

山下：Osaka Metroは駅のバリアフリー化のために、2023年4月から運賃を一律10円引き上げていますが、どんな風にな変わって

いきそうですか？

納：さっきも話しましたが、各社ホーム柵付ける際に膨大なお金の支出があるわけじゃないですか。そのわずかでも資金調達できればさらに前向きになれると思うんです。

山下：ホーム柵やエレベーターが設置されると障害者だけではなくていろんな方にも便利ですね。

納：その通りですね。障害者の方はもちろんですが高齢者やベビーカー利用者、インバウンドやキャリアバック持ってる人などすべての人に便利だと思います。そして現在では、1ルートでは不足してきて、さっきも言いましたが2ルート目のエレベーターを作っています。子どもも安心して電車に乗れるしね。最初の頃は障害者の人のためにやっていると思っている部分があったかもしれないですが、それは違うと思います。誰でも利用しやすい駅になる。それがバリアフリーです。

山下：Osaka Metroを利用する人たちは、次の電車を待たせずに来た電車にすぐに乗せてもらえることが多いですね。スロープもすぐ持ってきてくれます。

納：駅員は、出来るだけすぐの電車に乗っていただく頑張ってくれています。でも、メモ書いてタイマーをセットしていても、肝心のタイミングに他の駅から電話が掛かったり、他のお客様から声を掛けられたりすると、介助に向かうタイミングを逃したり、焦って駅を間違えて連絡していたりとか、たまにはミスをお犯してしまうようです（笑）。優先順位

をしっかり意識しないというミスで
ご迷惑をかけることもあります。すみま
せん。

やました 山下：駅員さんが減ってきてるから個人にかか
る負担は増えてますか？

なや 納：そうですね。駅員の配置が少ない駅で
は一度に業務が重なると大変だなと思
います。また、そんな駅でも介助依頼が
多い駅もあり、連続して連絡が入ると
頭が混乱しそう。今、駅で働いてる人
は慣れているかも知れませんが、ボクは
無理ですね。2～3駅先で降車する場合は、
降車駅に連絡ついでから乗車しても
らわれないと降車してもらえないので、目
の前に電車が来ていても「次の電車で
お願いします。」と言わせてもらってい
る時もあると思います。

やました 山下：それにしても、Osaka Metroの対応は他
の鉄道会社に比べて早いと思います。
改札からホームに降りるエレベーター
に乗ってる間に連絡してくれて、すぐ
の乗せてくれることもありました。

なや 納：速攻電話してますからね。そこは駅員さ
んの頑張りに拍手ですね。出来るだけ早
い電車に乗ってもらおうと思ってくれ
ているから出来ることですね。

～～ハード面とソフト面両方を
考えないといけない～～

やました 山下：駅員が少なくなったのはバリアフリー
が進んできたからですか？

なや 納：この数年、退職のピークを迎えていて、
毎年100人以上退職するのですが、
新人を毎年100人も採用できないじゃ

ないですか。再雇用で働く人はいてま
すが、その人も辞めていけば人がいなく
なる。少なくなる人数で駅が運営出来る
ように考えないといけない時期に来て
います。谷町線延伸や長堀鶴見線、
今里筋線開業時などに大量に採用し
た社員が大量に辞めていく。これは、他
の鉄道会社でも同じようなことがある
と思います。当社の場合はたまたまホー
ム柵の設置が進んで全駅が安全な駅に
なりつつあるのが救いだと思います。

やました 山下：僕たちも参加してる研修会をしてて
意識的にOsaka Metro自身も変わった

ことはありますか？

なや 納：本社の方でも、大事なことをやっている
という認識にちょっとずつ変わってき
ていると思う。2021年には関テレの
報道ランナーやNHKニュースなど
テレビで取り上げていただいています
し、会社の「Metro News」(YouTube)で
も紹介されてます。年1回だけではなく
て、新人が全員研修を受けることが
出来るようになればいいなと個人的に
は思っています。これまでに5回、お手伝
いいただきながら研修(体験会)を
開催できましたが、今後も引き続き
研修の機会を増やして行けるようにサ
ポートしていきたいです。

やました 山下：日常的にはエレベーターが付いて階段
担ぐことが少なくなった。そういう人た
ちに伝えるって難しいですね。

なや 納：本当ですね。大阪北部地震があって駅の
エレベーターが停まったじゃないです
か。その時に車いす利用者のみなさん
に、どのようにして地上まで避難しても

らえたのか、そこを考えた時に自ずと
答えがわかってきますよね。備えあれば
憂いなしで、今後も地道に研修
(体験会)を開催し続けることしかない
ですね。若い人だけではどうすればいい
かわからないと思うし、担ぎ方だけでなく、エスカレーターを使っていいのかど
うかの判断も。

やました 山下：エスカレーターを使っていいと言っても
介助したことがないから出来ないです
よね。

なや 納：そうですね。そこは経験しておく必要が
あるよね。

やました 山下：これからOsaka Metroでハードやソフト
で変わってほしいところと、バリアフリ
ーが進んできて、ベテランと若い人との
経験の差を埋めるにはどうしたら良い
と思いますか？

なや 納：難しい課題ですね。ハード的には、地震
発生時にエレベーターが止まっても早
く復旧できるシステムを構築してほし
いです。ソフト的には、駅の仕事
効率的に出来るようにしてソフト面を
充実させていくことが大切かなと思
います。ハード面が整ってきたからと言
ってソフト面が出来ないようになるの
はだめだと思うので、どちらも大事。ベ
テランがしてきた同じことを、今の駅員
に求めることはできないので、ちょっと
ずつでも積み重ねることが必要だと思
います。

やました 山下：今日は、長時間ありがとうございました。
これからもっともっとOsaka Metro
のバリアフリー化が進むように願って
います。

なや 納：ありがとうございました。

~~~~~

おおさか めとろ しゅさい  
Osaka Metroさんが主催するバリアフリー  
体験会に参加させていただいています。  
その時の様子を写真で紹介したいと思い  
ます



くるま じょうこうかいじょ ふだん えきいん  
車いす乗降介助（普段は駅員さんが  
スロープを持ってきてくれます。）



さいがいのとき  
災害の時など、エレベーターが止まった  
ことを想定して階段を担ぐ（担がれる）  
けんしゅう  
研修





<sup>しかくしょうがいしゃ</sup> 視覚障害者 <sup>てび</sup> への <sup>けんしゅう</sup> 手引きの研修

<sup>しやない</sup> 車内 <sup>しょうがいしゃ</sup> で障害者 <sup>けんしゅう</sup> と研修 <sup>さんか</sup> に参加した  
<sup>おおさか</sup> <sup>めとろしよくいん</sup> Osaka Metro職員さんと  
<sup>いけんこうかん</sup> 意見交換 <sup>ようす</sup> をしている様子



<sup>けんしゅう</sup> 研修 <sup>さいご</sup> の最後 <sup>きねんさつえい</sup> にはみんなで記念撮影 <sup>と</sup> を撮りました。

# ～～～Seven メッセージ～～～

名前：地村 貴士

所属：特定非営利活動法人ぱあとなあ 理事長

現在は、生活介護「フレンズ」の管理者 自立支援センター「ぱあとなあ」

この仕事に関わり始めて約30年になります。

趣味は、プロレス観戦、旅行、パチンコなど。

## ●今の仕事に関わるきっかけ

きっかけとしては約30年前。大学卒業のころはバブルがはじけて就職難の時代でした。僕は小中と地域の学校にずっと通ってたから、まわりに障害者の友達がなくて健全者の友達ばかりでした。その後も高校行ったり大学進学したりとか、あまり苦労せずにいけてたもんですよ。こんな感じで適当にどっかで就職してサラリーマンにでもなるのかなと思ってたんやけど、大学の就活の時に、「車いす、うち無理なんです。」「事務所が狭いんです。」「階段があるので。」とかいろんなこと言われて「車いす」って言うた途端、面談の予約が取れなくて、ほんまにヤバいな！障害者やとこんなヤバいんと思って。何10件も電話したけど面談にたどり着けなかったんです。結局、大学卒業してからも、職安とか覗きに行ったり、周りに良い仕事ないかなあと思いながら、大学卒業してからも大学時代にお世話になっていた町工場でアルバイトしてました。ぱあとなあの母体となる団体は、当時は無認可の福祉作業所やったけど、その作業所でアルバイトしてた人がおって、そのスタッフが僕の実家の近所に住んでたんです。そのスタッフに声を掛けられて「障害当事者の人が作業所でいろんな活動してんねんけど。なんもしてへんのやったら、一回遊びにけえへん。」と言われて、就職に繋がるようなきっかけになればいいなあ、いろんな人に出会えたら就職につながるかなあと思って、その作業所へ行ってみることにしました。そこには、佐藤賢一さんという重度の脳性麻痺の人がいて代表をされてました。佐藤さんは僕より5つ年上なんですけど、当時の東大阪市は、福祉サービスとか制度とか何もない時代やけど、親元から離れて、養護学校卒業してすぐくらいに東大阪市で自立生活を始められてました。その一人暮らしは佐藤さんのチャレンジでもあるんやけど、当時の学校の教師とか学生ボランティアとか、とにかくボランティアをかき集めて、自立生活を実践して、自身や仲間の居場所づくりで福祉作業所をやってて、その作業所には同じように養護学校を卒業して、行き場がないようないろんな障害者が、集まり活動されてました。佐藤さんから「いつでも来てくれてええよ。」言われたけど、出会った当初はしょっちゅう行ってる感じではなかったです。しばらくして、佐藤さんから手伝ってほしいことがあるという連絡がありました。当時、東大阪市内の近鉄沿線は20数駅あって、ほとんどの駅にエレベーターが無い時代でした。手伝ってほしい内容は、結論からいうと、エレベーターを設置させる運動を当時の障大連とともにやっていて、僕も市内の駅の

1つである「荒本駅」を担当し、市内全駅で同じ時間に車いす利用者が一斉に電車に乗るという活動でした。何もわからないまま「荒元駅」へ行くと、1人のおっちゃんが歩道の柵の所に腰かけて座って「今日はよろしくね。」と声掛けてくれたんです。そのおっちゃんは誰だったかと言うと、牧口一二さんやっただけです。



交通アクセス運動（担がれているのが佐藤さん）

牧口さんとの出会いは、その時なんやけど、その時僕は、牧口さんがどんな人かも知らなかった。自分の近況を話し「ええ就職先あったら教えてください。」とか、今考えたら初対面の牧口さんに失礼な話をしてたなあと思います。そして、「荒本駅」をバリアフリーチェックした後、各駅に散らばっていた人たちが集まって報告集会をやりました。当時の僕が感じたのは、確かに車いすで当時の駅は使いにくいねんけど、全駅で一斉に同じ時間に電車乗るから駅員とかめっちゃめっちゃ困るでしょ。当時は階段しか無いような駅を利用する場合、事前に連絡を入れたり、よその駅から助っ人の駅員を呼んで応援頼むか、乗客に手伝ってもらうか、みたいな時代やったから、全駅で同時刻に一斉に車いすで電車に乗ろうとしたら、各駅は対応に困って大パニックになるような状況で、僕らはそんなテロリストみたいなことやってたんよ。その行動の意味もわからず参加していた僕は、なんでそんな近鉄の駅員を困らせるんやろう、駅を利用してる乗客もあんまり僕らを良い風に見てないし、なんで世間から嫌な目で見られるようなことすんのかなあ。わざわざ喧嘩売るようなことして、変わった人たちやなあと思ってました。そんなことせんと、前もって駅に連絡したらええやんと思ってました。そんな僕に佐藤さんが言った言葉は「普段僕は、電車乗りたかったら事前に連絡しなアカンやろ。でも、健康者は好きな時に電車に乗れるやんかあ。でも僕らは好きな時に乗られへんやろ。それはおかしいと思わへん？すぐ電車乗りたい時に困るやろ。いつでも自由に乗れた方がいいやん。他の人と同じように電車を利用させてほしいだけやから、別におかしいことを言ってるわけやないんやで。」と言われたのを今でも覚えてます。当時の僕は、佐藤さんの言葉の意味を深く理解できてなかったけど、今思えばそのゲリラ的な活動が僕の障害者運動の始まりやね。後々わかってくるけど、佐藤さんたちの活動は、佐藤さん個人が自由に電車に乗りたいことをクリアしていくためだけではなく、すべての人たちが利用しやすくするために、近鉄とか大阪府とか東大阪市とかと協議してるんやってことを初めて知るんよね。それまで僕は、色々なお店でもそうやけど、エレベーターやスロープが付いたりすることって、お店や鉄道会社が僕らのために善意でやってくれてると思ってて、どっちかいと「僕は感謝せなアカン」と思ってて、でも実は駅にエレベーター1基付くのも、地域の人たちが散々「付けてくれ！付けてくれ！」言うて、喧嘩して、行政と予算の協議とかしながらやっと1つの駅にエレベーターが付くっていうことを、後から初めて知った時に、佐藤さんのやってることって、めっちゃめっちゃすごいことやってるやんって思いました。この人らやってることって

すごいことやのに、なんでみんな知らんのかなあと思ったんです。車いすの僕も知らなかったし。そんな感じで、この人らの活動面白そうやなとは思ってたけど、当時の僕はまだ、良い仕事が見つかったら就職したい気持ちの方が強かった時代でした。しかし、時間だけが過ぎていって、時々作業所にも遊びに行く頻度も増えてきて、いろんな活動とかに声をかけてもらって参加していくようになり、僕の就職したい気持ちは、徐々に佐藤さんたちと活動していく日々の面白さへと移っていきました。

## ●やりがい面白さは、なんですか？

この仕事って地域のまちづくりとか全体を良くしていく活動とかあるでしょ。それって、やればやるほど回りまわって自分の生活も楽になることに繋がってくるんよね。街の中のアクセスを良くしていけば自分も出歩きやすくなるし、他の仲間の介護保障を勝ち取る運動をやったとしても、いざ自分がそういうサービスを使いたくなった時に、使えるわけやから、結局、巡り巡って人の支援やっているようで、自分のところにも返ってくることもたくさんあるよね。このやりがいって結局は自分のことを中心に色々自分だけ良かったらええやんではなく、周りの仲間の支援をきちんとやっていけたら、その友達とか仲間も人生も豊かになるし、自分の人生も結局豊になるんよね。面白いのは、行政から事業委託を受けたり、その事業のお金で僕らも生活したりするわけやけど、その事業を委託する側の行政側に喧嘩（交渉とか）売ってるっていう、ちょっとおかしい構図ってあるやん。役所から補助金とかもらっていろんな事業をやってるのに、役所に要求書を出して、交渉とかするでしょ。普通に考えたらおかしいやん。役所から事業委託とか受けてたらある意味、役所の下請けやから役所に従って動くというのが普通やと思うけど、僕らって、そういう主従関係じゃないっていうのも面白いし。さっき僕が牧口さんと出会った当時、エレベーターは行政や鉄道会社が障害者のことを思っ付けてくれてるって思ってたようなことが、年月かけて当事者、支援団体が裏で一生懸命、話し合っって協議した結果、何かが生まれてくるんだということを知ることが出来て、自分たちの生きづらさというのは諦めるのではなくて声をあげていけば、社会を変えていけるんだということ、20年30年活動やってきた中でいくつも見てきたんよね。今の若い世代が自分たちの思いや声をあげなくなってきたと言われてるけど、ぬるま湯な社会というかバリアフリーが一定進んで、福祉サービスも一定整ってきて「これだけ良くなってきてるのに、なんでまだ文句言わなアカんの？もう少しおとなしく、ありがとうと感謝して、障害者も周りと一緒に生きていかなアカんのちゃうの？」というふうに思ってる当事者もいてるよね。僕も、自分の人生だけ考えたら、ここで活動をストップしても残りの人生なんとかやっていけるかもしれないけど、例えば、知的障害者で、施設に入ってる人、精神障害者で入院してる人とか、重度の障害者のことを考えたら、この世に生まれて自分らしく人生楽しくやってきてるんかなあと考えた時に、人生楽しめてない人がまだまだ多くて、僕らもそんな仲間を近くでたくさん見てきてるから。常に自分だけ良かったらええんか？に繋がるんやけど、そうじゃないんちゃうかなと思って。自分も今楽しい人生歩んでる途中やけど、施設や



病院で暮らす他の人たちも本来であれば、そういう時間を過ごせるべきでしょ。自分らしい人生をおくることが、その人ひとりの力で難しいんやったら、みんなが協力して何か一緒に手伝えることがあったらいいなと思ってます。この仕事のやりがいとか面白さって言うのは、そんな一見人のためにやっているとされているようなことが、結局最後は巡り巡って自分のところにかえってくるんじゃないかなあと思ってます。



### 小学校で福祉教育の授業

●当事者と関わる中で大切にしていることを教えてください。ピアカウンセリングとかをちゃんとやってなかったら、もしかしたら違ってたかもしれないけど、その人の持つ力を信じるというか、どんな人でもその人なりの力があるっていうことを信じてはいるかなあ。身体障害だけでなく意思決定が難しいような知的な仲間とか、しゃべれないから、なんも出来へんじゃなくて、長く関わっていくとその人が出来るスキルやストレングスって見えてくるから、例えば僕らが支援しようとして、その人が支援を拒絶しようとする、拒絶できるっていうのは、どう僕らが受け止めるかという話だけで、拒否できる力があるんやということでもあるでしょ。いろんな日常のいろんな場面場면을肯定的に捉えられるかっていうのは、人はつついマイナス面で捉えがちでしょ、僕も完璧じゃないから自分たちの苦手な部分ってあるやんかあ。苦手な部分を短所として捉えてしまうとだんだん元気なくなるけども、ほんまに短所かどうかなんよね。自分勝手な奴がいて協調性がないっていうたら、なんか問題がある人やなって聞こえるけど、マイペースで自分らしく生きてるんですよと表現すれば、なんか格好いいやんか。僕らって、生活を考えていく中で、課題をみつけたがるんよね。課題っていうのはマイナスっぽい表現やんか。そういう風な視点で考えると僕ら障害者はやっかい者になっていくけど、そうじゃなくて、肯定的な視点でみていくと、みんな強みや力があるから、当事者との関わりの中で僕が大切にしていることは、口達者な奴もそうでない奴も3障害いろんな人たくさんいてるけど、それぞれの人にそれぞれの持ち味というか、その人の持ち味や力があると絶対に信じてるから、ピアカウンセリングなどで学んだそういう目線で向き合っていくというのは、今僕らのベースにあると思います。ピアカウンセリングの考え方の中で相手を否定しないとか、本人の持つ力を引き出すとか、時間を対等に分かち合うとか、基本的なことを散々いろんなリーダーから話を聞いて、自分がまたリーダーになってまわりに伝えてきた時間も何か僕に影響を与えてくれたんやと思います。あと僕が大切にしていることは、なるべく忙しくなかったら、周りの人とよく喋るよう対話は大事にしています。自分がめっちゃくちゃ忙しくてバタバタしてたとしても、嫌な顔はしないように意識はしてるかなあ。とは言え、今忙しいねんとかやんわり断ることもあるけど、本気で言うてもたらみんな近づきにくくなるでしょ。僕らって人と喋ってなんぼやと思ってるから、ちょっとでも近づいてきやすいような雰囲気作って



おきたい。ベースは相手を信じること。社会の中でいろんな人が共に生きることを目指していく  
んやったら、自分たちがまず分け隔てるような活動してたら説得力ないと思って、ぱあとなあで  
はいろんな人がごちゃまぜで活動してます。

### ●続けられてる理由は、なんですか？

ずばり、仲間がいてるからやと思います。仲間っていうのは障害者の仲間もいてるし、健常者の  
仲間もいてるし、団体は違うけど、山下くんみたいな仲間もいてるし、僕は強い人間じゃないか  
ら独りぼっちになってしまうと積極的にどこまでできるかわからないけど、自分のまわりにはた  
くさんの仲間が同じ方向をむいて、後押ししてくれてると信じてるから続けられてるんちゃ  
うかなあと思います。一応代表してるから引っ張っていく立場ということもあり、僕が常に  
優柔不断でみんなに不安を抱かせる形やとみんなも「地村さんに、ついていって大丈夫かな…」  
となったら申し訳ないんで、みんなの前では気持ちを鼓舞するとか、きちんと決断して一定の  
道筋を示せるような立ち振る舞いをしようと心がけてます。と  
は言え、自分はスーパーマンじゃないから右いけばいいのか左い  
けばいいのか迷う時もあるけど、どっちか選んで進むしかかない  
でしょ。失敗も成功も経験してきたし、僕は仲間の支援をやって  
きたつもりやけど、実はそんな仲間に助けられてここまでやって  
これたんよね。



ひがしおおさかし 東大阪市のマスコット トライ君と一緒に記念撮影

### ●障害者と関わる前と関わってからの変化は、ありますか？

この業界に関わる前は、障害者との関わりはなくて、感覚は健常者感覚で過ごしてきました。  
自分で出来ることは自分でやらなアカンという完全な医学モデルの考え方で過ごしてきました。  
でも、この業界に入ってから社会モデルという考え方を知りました。ここは自分で頑張らな  
あかんけど、ここは自分の責任じゃないという整理。スロープ付いたりエレベーター付いたりするこ  
ともそうやし、人の手を借りて生活することもそうやし、この活動に関わってなかったら、自分の  
ことは自分一人の力で解決することが正しいと思ってたし、自分の身のまわりのことを自分一人  
に力で出来なかったら自立とは言えないと思ってたと思います。いろんな障害者の先輩と出会  
って、いろんな生活を見たり、いろんな活動に参加してきて、僕の中での障害者観は変わりましたね。

### ●これから挑戦したいことを教えてください。

ぱあとなあには重度の知的の仲間もたくさんいて、強度行動障害の人たちの自立っていうのは、  
今はまだ入所施設であったり、かろうじて地域のグループホームであったり、親が死ぬ間際まで

がんばってたりするけど、重度の知的障害者が一人暮らしを作っていくスタイルってまだまだ一般的なではないよね。関東では一部そのような生活もあるみたいけど、関西の知的障害者の自立ってグループホームの文化が根強いでしょ。グループホームがダメということではないけども、グループホームの2、3人の生活ですらこだわりとかいろんなことがあって、共同生活が難しい人たちにとっては、その人の環境を中心に考える個別支援で支えていく部分も大事なところ最近考えてます。重度の知的障害の人たちに、いかに重度訪問介護が支給決定されるようになるのか？居住の場をどうやって作っていくのか？など、身体障害者の福祉サービスと比べたら知的障害者のサービスはまだまだ足りないから、知的障害者の仲間の自立生活をどう取り組んでいこうと考えています。

## ●座右の銘

あえて言うなら『終わり良ければ総て良し。』ですかね。いろんな道筋や行程はあるけど、最終的なゴールが結果的にクリアできてるんやったらええかな。僕自身さぼり癖があるから、なんでも迅速的確にがむしゃらに最善な道を進んでいくっていうのは苦手で、休憩したいこともあるんで、いろんな道筋を歩んでいくけど、最終的に死ぬ間際になったその時に、自分の人生がまあまあ面白かったなと思えたら良いなと。僕は、生後3か月の医療ミスで脊椎損傷になったので、物心ついた頃はもう歩けてなかったんですが、歩いたことのないこれまでの人生を振り返った時、歩けなくて嫌やった思いが一度も無いと嘘になけどね。いろんな場面で歩かれへんの面倒くさいなとか、歩けてたら便利やろなとか、健康者やったらトイレ失敗することもないんやろなとか、思ったことは色々あるけど、これまで、最終的には歩けなくて車いすの人生を送ってきて、面白いことが1度もなかったかっていうと、全然そんなことないしね。最終的に人生がまんざらでもなかったなと思えるんやったらええなあって思ってます。仲間の支援や様々な活動を通じて、いろんな課題とか問題にぶち当たったり、時にはイバラの道を進むこともあるやろけど、最終的に合格点な結果に結びつくのであれば問題ないと思ってます。優生思想や命の価値などが話題になるときがあるけど、生きて価値のない命って本当になし、どんな人たちの存在も必ず意味があるし、毎日淡々と生きてるかもしれないけど、平穏な時間も決して無駄な時間ではないから。必ず未来のどっかに何かしら繋がってるでしょ。



アメリカへ研修にも行きました。

と考えるとそういう『終わり良ければ総て良し』みたいなことって、最終的に自分が納得いくような結果につながるのであれば、途中はどんな道のりでもええかなと思ってます。就職もできず何もわからず障害者運動の世界に入り、将来の生活を不安に思うときもありました。その後、30歳でばあとなあ代表となり、自分の立場と自身の知識や経験の差に悩むと

きもありました。どうしようもない失敗や、とてつもない不安な時期もありました。なんやかんや  
で20数年が経過しました。しかし、死なずにまだ生きてます。就職がうまくいかなかったけど、  
毎日ご飯も食べてます。たくさんのお会いや経験の中で、腹の底から笑えた時間もありました。  
まだまだ人生の旅の途中ですが、今や過去をネガティブに捉えるんじゃなくて、生きてたらええ  
ことあるでって。長生きに興味あるわけではないけど、生かしてもらってる命があるんやったら  
1日1日しっかり生きて、最後はおもしろい人生やったなと思えるよう、終わり良ければ総て良しと  
なるよう、残りの人生を過ごしていきたいと思います。

~~~~~

名前：妹尾 美紀
所属：生活介護「フレンズ」
担当：ピープルファースト
「フレンズ商会」で販売活動
趣味：おうちでゲームをする



2023年4月 ピープルファースト
おおさかじょうこうえん
大阪城公園での会議

妹尾さんが講演の時に発表した文章を紹介します。

●ばあとなあに関わるきっかけ（私のこと、ピープルファーストと出会って）

ばあとなあの妹尾美紀です。知的障害があります。私の苦手なことは計算や難しい漢字や
文章を読むことです。「早くして!」と言って焦らされることや、急な大きな音も苦手です。ス
ズメやカラスなど鳥が苦手です。だいぶ前に顔の近くを鳩が通ったことがあって、すごく怖い思い
をしました。そこからずっと怖い気持ちとイメージが取れません。道端でカラスや鳩がいると固ま
って近くにいる人の腕を掴んで離しません。誰かといるとちょっとマシになりますが、やっぱり鳥
は怖いんです。

私は中学校の時の先生のすすめもあって、服を作る専門学校に通っていました。授業につ
いていくのが大変で、服作りの宿題をするために頑張っ居残りしたり、家でお母さんに教え
てもらいながら作ったりしていました。いつからかはっきりと覚えていないけど、「ラン」という
知的の仲間の作業所と出会って学校帰りに寄り道して遊びに行っていました。その頃に「佐藤賢一
さん」という車いすの当事者と出会って、いろんなことを教えてもらいました。電車で途中の駅
で降りて近くにあったフレンズにも行き、夏休みや冬休みは友達と一緒に毎日遊びに通うよう
になりました。専門学校を卒業して就職したけど、仕事の早さについていけなくて、半年ぐら
いで辞めてしまいました。辞めたあとはフレンズのメンバーになって今に至ります。もう20年以上
フレンズで活動しています。

最初の頃は事務所に入りたかったけど、恥ずかしくて入り口から、そお〜っと覗くだけでした。

でも、佐藤さんと職員から声をかけてもらって、勇気を出して入ることができました。この頃は、人と話すのが苦手で、どう言っているかわからなくて、不安で職員や佐藤さんの背中に隠れてよく泣いていました。知り合いとは普通に話せるんですけど「美紀ちゃんはどう思う？」と意見を求められたら急に固まってしまう。その時の私の気持ちは今思うと恥ずかしいが20%不安が20%わからないが60%ぐらいだったかなと思います。2010年にピープルファーストと出会うまで、これがだいたい10年ぐらい続きました。人と仲良くなる時間がかかるタイプで、お客さんがくると、職員のそばを離れずずっと緊張していました。頑張ったことを褒めてもらえるとたくさん嬉しかったりします。今もそうです。褒めてもらえると嬉しくてまた頑張ろう。次もやってみようと思います。でもわかってももらえない、うまいこと伝わらないと感じた時は、悲しい気持ちになって「なんでわかってくれないの？」ってなって、周りの人を睨んだり大きな音を立てて強くドアを閉めて、なんとか気持ちをわかってもらおうとしていました。わかってほしかった。でも「美紀ちゃんが怒っている」ことはわかってくれても結局「なんで怒っているのか」伝える方法がわからなかった。どう言ったら相手に伝わるかわからなかったです。ぱあとなあで活動していく中でピアカンに参加するようになりました。当事者だけでお互いの話をしたり聞いたりして、みんなで元気になる、安心できる、しんどい気持ちを分け合える。そんなピアカンで、パンジーの知的の仲間とも出会いました。その繋がりでピープルファーストと運命の出会いです。最初はよくわからないまま、誘われたから参加していました。月1回の大阪の会議や年1回の全国大会にも行ってました。全国大会は旅行のように遠くに行くこともあります。新幹線や飛行機に乗って行くこともあります。何度も参加していると「行ってきてどうやった？」「どんなことしてきたの？」と、ちゃんと会議で報告してほしいと言われるようになりました。でも、どんな風に言ったらいいかわかりません。「楽しかったこと、こんなことしてきたよ」と伝えたいけど、どうしたらいいかわからなくて、いっぱい緊張しました。用意してもらった原稿を読むだけでも顔からいっぱい汗が出ました。文章を読むことはできるけど、人前で発表するとか、私には絶対無理と思ってたから「なんで私に？」と不思議に思っていました。会議の進行とか文章を読んだりすることがピープルファーストの中でも、だんだん増えてきました。緊張をいっぱいして、読んだ後に緊張が解けて泣いたり汗だくなったりしたけど、まわりの人からいっぱい褒めてもらって、頑張って良かったなと気持ちが湧いてきました。何回もやっていくうちにだんだん仕事を頼まれるのが嬉しく楽しくなってきました。今は、ピープルファースト大阪の代表をしています。原稿は、最初は全部支援者に作ってもらうことが多かったけど、文章と一緒に考えながら、どっちの言葉が言いやすいかなと相談して話す内容を作っていくこともやっています。手書きで30分ぐらいの講演をする原稿も作ったりもします。ピープルファースト以外にも交通関係の会議や障大連の当事者会議など、仕事の予定がたくさんあるのが忙しくて大変だけど嬉しいです。手帳が埋まっていくのが楽しみだったりします。私には懂れている人がいます。ピープルファーストジャパンという全国の代表さんが集まる会議で出会いました。北海道の人と東京の人です。

2人は書くことが少し難しいけど、法律のこともなんでも聞いて自分の意見をしっかり伝える、話し合いをする力があって、国会の会議にも障害者の法律を作る時の会議に参加している、すごい人たちなんです。みんなの前で堂々と自分の意見を喋っているのをみて、すごいなあが80% こんなふうになりたいなあが20% ぐらいの気持ちが湧いてきます。今はいっぱい考えないと言いたいことがまとまらんかったりパニックになったりするけど、いろんな仕事をして、いろんな人と話をしていく間にちょっとずつ練習して、きっと慣れていけると思います。楽しいみんなの居場所になれるようなピープルファースト大阪にしていきたいです。これで私の話を終わります。

●仕事のやりがい面白さを教えてください

妹尾：頑張ったことを褒めてもらえること。講演や仕事、会議の予定が上手くいくこと。役に立ってるって感じるのが嬉しい。

山下：大阪の代表は何年前からやってるんですか。

妹尾：最初に代表になったのが2018年。それまでは違う人が代表してて立候補して選挙したら選ばれた。だいぶ接戦やったけど・・・任期は2年なんですけど、選挙がある頃にコロナが流行って選挙が出来てない状態です。だから、そのままですね。選挙もしたいです。今年は出来るかなあ。

山下：大阪の代表に選ばれた時は嬉しかったですか？

妹尾：はい。最初は不安はあったけど今はないですね。

山下：楽しいですか？

妹尾：はい

●当事者と関わる中で大切にしていることは、なんですか？

妹尾：みんなが楽しめるような会議やイベントを作りたい。参加者を増やしたい。居心地の良いような場所を作りたい。ぱあとなあでもピープルファーストでも同じ気持ちです。

山下：どんなイベントをこれまでやってきたんですか？

妹尾：かき氷や、流しそうめん。竹でコースを作って。

山下：本格的ですね。

妹尾：そうですね。またやりたいです。季節のイベントがあるんですけど当事者が企画していますね。決めていくのも当事者、当日進行するのも当事者。だいぶ長いことやってますね。昔は浜寺公園でバーベキューもやりました。コロナが落ち着いてきたから、いろいろできることが増えると良いですね。



2023年2月11日

滋賀アメニティーフォーラム

●^{つづ}続けられている理由^{りゆう}を教^{おし}えてください

妹尾^{せのお}：楽しいから。みんながいるから、自分の居場所^{じぶん いばしょ}が見つかった^みと思う^{おも}。

山下^{やました}：みんなやさしいですか？

妹尾^{せのお}：うん。楽しいですよ。

山下^{やました}：アクセス^{かんさい}関西ネットワークや交通^{こうつうぶかい}部会にも参加^{さんか}してくれていますよね。

妹尾^{せのお}：はい。今はズームで参加^いしています。会 場^{かいじょう}には行きたいです。

●障 害 者^{しょうがいしゃ}と関^{かか}わる前^{まえ}と関^{かか}わってからの変^{へん}化^かはありますか？

ピープルファーストと出^で会^あって大^{おお}きく変^かわりました。前^{まえ}までは意^い見^{けん}言^いえなかつたけど、意^い見^{けん}言^いえるように変^かわった。最^{さい}初^{しよ}の頃^{ころ}は意^い見^{けん}が言^いえな^なくて泣^ないてたけど、泣^なかなくな^なった。何^{なに}も言^いえなかつた。わかんないところ聞^きけるようになってきた。どうい^いう風^{ふう}に聞^きいていいかわかん^{かん}なかつた。

東^{ひがし}大^{おお}阪^{さか}市^しの会^{かい}議^ぎにも出^でます。福^ふ祉^し計^{けい}画^{かく}を作^{つく}るた^ための会^{かい}議^ぎ。自^じ立^{りつ}支^し援^{えん}協^{きょう}議^ぎ会^{かい}の公^{こう}募^ぼ委^い員^{いん}に立^りっ候^{こう}補^ほして、800文^{もん}字^じの文^{ぶん}章^{しょう}を書^かいて提^{てい}出^{しゅつ}してくださ^いいと言^いわ^れて、それ^{それ}を頑^{がん}張^ぱって手^て伝^{でん}ってもら^らいつつ、書^かいて送^{おく}ったら合^{ごう}格^{かく}したん^だす。私^{わたし}は落^おちると思^{おも}ってたから、なん^{なん}か封^{ふう}筒^{とう}で来^きたからビク^{ビク}りした。地^ち村^{むら}さん達^{たち}と一^{いっ}しょに会^{かい}議^ぎに出^でます。

昔^{むかし}は全^{ぜん}然^{ぜん}笑^{わら}わなかつた。恥^はずかし^{かし}かつた。うしろに隠^{かく}れて「前^{まえ}に出^でえや。」と言^いわ^れれてたけど、今^{いま}はもう前^{まえ}のほうにいける。

●座^ざ右^{ゆう}の銘^{めい}（好^すきな言^{こと}葉^ば）

これ^{いちばん}が一^{いち}番^{ばん}難^{むずか}しかつた。私^{わたし}は歌^{かし}手^{しゅ}の嵐^{あらし}が大^{だい}好^すきで、ハピ^{あらし}ネスと^きいう曲^{きょく}で「明^{あす}日^{むか}を^{むか}えに^あいこ^いう」とい^いう歌^{かし}詞^しがあるん^{あらし}です。嵐^{あらし}を聞^きくとテン^あションが上^あがるん^いです。コン^いサートに行^いきたいけどチケッ^いトが高^{たか}いん^{とお}ですよ。遠^{とお}くでコン^{おお}サートがあ^{おお}つたり、大^{おお}阪^{さか}でや^{おお}っててもド^いームとかやも^{きゅうけい}んなあ。行^いきたいけど休^{きゅうけい}憩^{ちゅう}中^{かつどう}（活^{かつ}動^{どう}休^{きゅう}止^し）や^し。復^ふ帰^{つき}は大^{おお}野^のくん（リ^{しだい}ーダ^{おも}ー）次^{かい}第^{さん}やと思^{あらし}うよ。解^{かい}散^{さん}ではな^ない。嵐^{あらし}の中^{なか}では翔^{しょう}くん（櫻^{さくら}井^い翔^{しょう}）が好^すき。



●これ^{ちやうせん}から挑^{てん}戦^{せん}したいこと

第^{だい}4^{どう}土^と曜^{よう}日^びにピー^{おお}プル^{あつ}ファースト大^{おお}阪^{さか}の集^{あつ}まりがあ^あります。コ^おロ^もナでしば^{おも}らくオ^{おも}ンラ^{おも}インだ^{おも}ったけど、今^お年は対^お面^もの会^{おも}議^もを増^{おも}やして活^{おも}動^もを盛^{おも}り上^{おも}げてい^{おも}きたいと思^{おも}います。

10月^{がつ}には大^{おお}阪^{さか}大^{だい}会^{かい}もあるし、勉^{べん}強^{きやう}会^{かい}や実^{じつ}行^{こう}委^い員^{いん}会^{かい}の会^{かい}議^ぎがあ^あって、ぶ^{ぜん}っ^{たい}ち^{へん}やけ全^{ぜん}部^ぶが大^{だい}変^{へん}ですけど、い^いいイ^いベ^いン^んトに^{うん}して^{えい}い^がたい^わき^わたい^わです。10月^{がつ}の大^{だい}会^{かい}の副^{ふく}実^{じつ}行^{こう}委^い員^{いん}長^{ちやう}なん^{うん}です。運^{うん}営^{えい}側^{がわ}にまわ^{まわ}ります。

